



☆民族指導の考察

民族の理解

陳紹馨

金城鐵壁を誇つた昭南島が陥落した時、敵將のある人が、英國が土民の民心を把握してゐなかつたことが今日の敗因であつたとしみじみ述懐した。こういふ愚痴を今更こぼすことからして我等には不

思議である。英國はそもそも初めから民心の把握など考へたことなく、膏血の搾取のみを事としたではないか。元來白人は有色人種を人間並に扱つてゐなかつた。神の福音を説く宣教師でさへ、有色人種は當然白人に仕へるべきものと思つてゐる。かゝる立場からは民心を把握する處でなく、之にふれることさへおぼつかない。民心の把握は、政治的侵略や經濟的奪取を事とせず、萬邦をしてそのところを得せしむる 大御心を奉體するものにして始めて可能なのである。

大東亞共榮圈の建設は單に東亞諸民族を政治的經濟的にリードしていくのみでなく、その心の中に入り、之を振起し之を誘惑していくべきものであることは論を待つまでもない。その際我を彼に知らしむると共に深く彼を知らなければならぬ。政治經濟の調査のみならず、その社會、傳統、民情、風俗を微細に亘つて究めなければならない。愛は理解より生ずとターゲルが謂つてゐる。心の結合を固めるには互に理解しなければならず、理解を深めるには民俗を究めなければならない。民俗の探求は今や好事家の閑事業ではなく、實に建國の大業に馳せ参すべきものなのである。

人間の悟性は明鏡の如きものでなくして意志と感情とによつて柔らかされ、迷信と欺瞞とに満ちた魔法鏡である、人は眞であるものよりも寧ろ彼の欲する處のものを容易に信ずる之が人間の偶像である。而

して眞の知識に到達する爲にはこの偶像を破棄しなければならない、その昔フランス・ベーコンがかく說いた。民俗、殊に異民族の民俗の理解に當つてこの偶像が如何に強力なものであるかは、今更指摘する迄もない處である。

リキシャにふんぞりかへつてフジャマをながめゲーシャガールを買へば一つばかりの日本通をぶりまはす紅毛人のザマを見れば、民俗の理解が如何に困難であるかと察せられるであらう。かゝる手合はそもそもの初めから「民俗を理解する」意志は更なく、物見遊山の途次好奇心をそゝる異國的なものを話の種子に見物するに過ぎない。この手合よりやゝましなものに科學的研究と銘うつ好事家的な研究がある。併しこれとても、切實な要請から探究に入るものでなく、未開人の習俗をやゝ組織的に觀察して、以て白人が如何に有色人種に比して優秀であるかを證明する資料を獲得して満足してゐる有様である。

新しい事實を認識し理解するには相當頭腦を驕使し努力を重ねなければならない。慣性的な生活に慣れた人間にとつて、解決しなければならない新しい生活關係に逢着するのでなければ、科學的な認識が組織化されないのが常である。農耕或ひは治水の爲に天文學、曆學、幾何學等が發達したのであり、君主と諸侯や法皇との權利關係の討議より西歐の近代政治學や法律學が萌芽し、封建社會の内において商品經濟の活路を開拓して行く努力が經濟學の生成を齎し、

產業革命及政治革命後の混亂した西歐の社會を再組織せんとする意圖が社會學生成の動機であつた。近代の人文科學社會科學の歴史を辿るなら、いづれも切實なる實踐的要要求に發することが伺はれる。民俗の研究も固よりその例外をなすものではない。

獨奇心を満足させるに過ぎない見聞や好事家的な觀察の領域を脱し、やゝ科學的な研究が始まつたのはキリスト教傳道の爲、近代的な商品を賣廣めんが爲、或ひは統治技術確立の爲の實踐的要要求にうながされてからである。この場合研究に眞劍味を帶び、認識は深められたのであるが、その認識は併し局部的なものにしか瓦らず、しかもゆがめられたものであるのが常である。

異民族の生活は極めて複雜多岐である。漠然とに臨む時、豫備知識のない爲、或ひは關心を有しない爲に我等の視野を逸するものが少くない。又我等の視野の内に入る雜多なものと雖も、之を寫眞の如く模寫し得るものでなく、その内の若干の契機を本質的なものとして取出すものである。而して如何なる契機を取出し、又取出した諸契機の内のいづれに重點をおくかは、一に觀察者の關心如何にかかるてゐる。學者は客觀的に冷靜に觀察すると自負するが、題材の整理において既に意識的にか或ひは無意識的にか、一つの價値體系を前提してゐる。宗教或ひは統治技術確立の爲に調査研究するものにとつては、必然的に宗教或ひは統治技術確立にとつて重要な契機に關心を有ち之を取出して強調し、他の契機はその視野を逸するか、

或ひは重要なるものとして處理される。更に一步進んで考へる

なら、自國の利益の爲の宣教、貿易或ひは統治をするものにつては、自國の利益を最高の規準とし、之に關係するのを第一次的に取出して強調すると共に、自國の政策及び利益に反する事實は、之を開却するか、或ひは之を否定する様にならざるを得ない。イギリス人のインド研究はイギリス人の貿易或ひは統治の爲のインド研究であり、しかもイギリス人の利益の爲のインド研究である。學者の手に描かれたインドの姿はインド本然の姿でなく、イギリス人の貿易或ひは統治から見たインドの姿であり、したがつて局部的なものたるざるを得ない、しかもイギリス人の利益から見たインドの姿である。したがつてゆがめられた姿たらざるを得ない。

無論研究にたずさはる學者の個々人によつて迂餘曲折があり、個々の場合について單純にこの事態を指摘するのは困難であるが、この根本的な動向が嚴然として背後に控へてゐることは否むことが出來ない。

異民族の生活のありのまゝの姿を全體的に認識し、その重要な契機を重要なものとして取上げ得るものは、之を服装取することなく、その獨自的な存在を認め、之と心から結合をし之を説披して行くことをするもの、即ち萬邦をしてそのところを得せしめんとする大御心に副ひ奉らんとするものにして、始めて可能なのである。ここに謂はば民俗學の「政治性」とも稱すべきものが存し、而してこの政治性を充分に意識して始めて民俗の探求はその使命を達成すること

が出來るのである。

二

異民族の生活を理解するには丹念に之を調査し研究して行かなければならぬのは言を待つ迄もない。而して正しい認識を得る爲めには研究調査の實踐的意圖を明確に反省しなければならないのである。處で、異民族の生活の認識への心構へは之だけでは未だ十分とは謂ひかねる。この他に尙破棄しなければならない「偶像」がひかれてゐる。先づ第一に先入觀念、殊にそれに結びつく單純素朴な價値判断を打破しなければならない。

由來國力の強盛なる國、文化の高い國の事物は、無條件によりよいもの、本源的なものとされる傾向がある。かつて支那の青年がドイツの知名な學者の門をたゝいて教を請ふた際、支那古來の哲學思想を陳述して意向を求めたが、それは西洋の誰それの説をまねたものだと簡単にかたづけられてアツた。高見拜聰の後招宴に預つた支那の青年は、食卓に上つた水を飲んで暫し玩味の上「之は支那から來たのですね」と尋ねた。度贈を抜かれた學者は暫くあきれて、「いや、仇をとつたとの話がある。

それは只の水だ、ドイツにあるのも支那にあるのも同じものだ」と返事した。「支那はドイツよりも歴史が古いから、ドイツにある支那と同じものは當然傳來したものに違ひない」と青年はすまして

文明社會に接觸する未開人は、その生活の保全の爲めに相手の生活を真剣に努力して研究しなければならないが、文明人は殊更に骨折つて未開社會の生活を研究する必要なく、文明社會の思想行爲は無條件に妥當するもの、當然範例となるべきものとされるのが常がある。たまたま兩社會に同一現象が存在するとしたら、未開人は眞似をしたことになり、又兩社會に存在する同一の事實に對する解釋も全然異つたものになる場合が少くない。支那では紙巻煙草の一本賣りをやつてゐるが、ある人は之に對して、支那人は金錢に細いから紙巻煙草の一本賣りまでしてゐる、と評してゐる。處がフランスでも一本賣りをやつてゐる。これに對して他の人は、フランス人は矢張氣がきいてゐる、一寸小錢の足らない時や色々變つた煙草が欲しい時など一本賣は實に便利だ、と評してゐる。もともと煙草の一本賣といふ同じ現象であるが、フランス人の場合と支那人の場合とで全然異つた評價が下されてゐる。事象に對する客觀的な判斷よりも先入觀念がこの際ものをいつてゐるのではないか。西洋に旅行する日本人には、支那人に間違はれると無性に憤慨するが、スペイン人やイタリイ人に間違はれると得意になつて自慢するものがある。心ある人は之を塞心すべき心事だと慨嘆してゐる。何故に支那人に間違はれて憤激し、南歐人に間違はれて得意がるのであらうか、事の如何をとはず、支那的なものを直ちに悪いもの、下等なもの、歐洲的なものを直ちによいもの高級なものとする先入觀念が存してゐ

る爲めに他ならない。大東亜戰以來この親歐米或ひは崇歐米の觀念が完全に打破されたのであるが、かゝる先入の觀念が事象の客觀的認識に少からぬ障礙をなして來たのである。南方の未開人に臨むに當つても、その文化の低いが故に之を輕視蔑視することなく、暖い心を以て之を理解し之を抱擁して始めて低い文化を向上せしめ、皇化に浴せしめることが出來、皇威を宇内に光被せしめる所以ともなるのである。

三

アメリカに旅行した日本の紳士が故國に、本場へ來たから美味い西洋料理が食へられるかと思つたが、豈はからんや日本よりもまづいと便りをした。料理は文化の華ともいふことが出來やう。文化の古い國にして始めて高雅な料理が生れ、又高雅な料理を賞味するものが存在するものであるから、アメリカの様な成り上りの國には固より高級な料理を期待することが出來ない。併し紳士の謂ふ様にアメリカの西洋料理が日本のよりも不味である事となると、問題は自ら別である。アメリカ人も又そう判断するだらうか。或ひは日本人でもなくアメリカ人でもないフランス人又は支那人に鑑定さした場合はたして軍配は何方にあがるだらうか。

日本に入つた西洋料理は日本人の味覺に適合する様に加減されたもので、日本人の嗜好にかなつてゐるが必ずしも他の等しく推奨するものとは限らない。「アメリカの西洋料理は日本のよりもまづい」

と紳士が述べた時、彼はその個人的感想を披瀝したまでである。「日本人の味覺嗜好とアメリカ人のとは異つてゐるものだ」といふ事に彼が氣付いた時に、始めて異民族の生活の認識に一步ふみ込んだと謂ふことが出来るのである。

味覺嗜好は風土により、人種によつて甚だ相異してゐる。同一人種同一社會においても、階層を異にするにつれて味覺の標準が異つてゐる。かつて臺灣南部のある農場において農民を御馳走によんだことがあつた。盛宴の後に主人は得意顔に來客に「どうです、今日の御馳走は」と尋ねたがその答はこうであつた。「大へん金をかけた様ですが、もつと肉と油とが多かつたらよかつたね」と。臺灣の農民は日常は蔬菜或ひは漬物で三度の食事をとり、肉類はお祭或ひは月に二度の做牙の時でなければ、口にする機會が殆どない。彼等の味覺は纖細高雅な調理には全く無感覺であり、油っこい肉類が唯一の珍味とされてゐる。美味しい料理のことを彼等は「好魚好肉」と稱してゐる。田舎で農民の答應でも受ける時、見るのも憂鬱になる肉の大塊をしつこくすゝめられるのに閉口したものもあることと思ふ。これは併し農民にとつては、最上の料理を以てする最高の好意である。同じ本島人でも、肉類を常食する裕福な家庭では、なるべくあつさりした味が出る様に調理し、野菜料理のこつたものを珍重してゐる。この階層にとつては「好魚好肉」は必ずしも美味な料理である譯ではない。

黒人を扱ふ場合は黒く考へなければならない To think Black とある人が謂つてゐる。異民族に接する場合一々自分の物指をあてるなら、つひにそれを理解することが出来ないであらう。來遊の外人に日本人が、「私の處は何處そにある小さい家ですが遊びに来て下さい」と招待したことがあつた。指定の場所に住の外人が行つて見た處、豪壯な邸宅はあつても小さい家は見當らなかつた。そこで、大きな家を小さい家と謂つたりして日本人はうそをつく、と彼は非難をしたといふ話がある。無論日本人がうそをついたのでも何でもなく、彼外人が我等の社會の謙遜の徳を理解しない爲の誤解である。この際主客が變つてゐたとしたら外人は「私の處は何處そにある一番大きい一番きれいな家」と謂つたであらう。それだからといつて、毛唐は一向謙遜を知らない、と非難するのも又當らない。我等の社會では謙遜をするのがよいことであるが、西洋人は、事實をありのままに謂つて迅速に能率的に事務を處理して行くことが出来る様にするのをよいこととしてゐる。社會生活が異れば社會規範も又自ら異なるものであり、徒に自分の物指をあてゝ相手を非難するよりも、相手の生活を理解して對處すべきでなからうか。味方としてスクランブルを組んで共に進んで行こうとするものは勿論のこと、敵に廻す場合にしても知己知彼百戰不殆であるから、よく之を知らなければならぬ。未開人の陋習惡俗を改革しようとする時にも、一應之を理解するのでなければ目的を完全に達成するのは困難である。何よ

りも先づ理解することが必要である。

四

イギリスの汽車に乗る場合、手荷物は別に合鑑と引換に託送する必要なく、旅客自身が自由に手荷物車で出し入れしても荷物が紛失することがないとのことである。それだからといってイギリス人が日本人よりも徳性高く、イギリスに盜入がないと断する人がある

としたら、誠に滑稽な話である。西洋人は権利義務の発生した場合はことごとに契約書を取りかはすのが常であるが、昔の東洋人にはその必要がなかつた。それだからといって東洋人が私法關係において西洋人よりも徳性が高いといふ譯でなく、久しい社會慣行が然らしめたものに他ならない。時々冷害に見舞はれる東北地方の農民には、娘を養ふより馬を飼つた方がよい、と述懐したものがあつた。良馬を産するある僻村には、馬の病氣を治す立派な獸醫があるのに人間の病氣を治す醫者がゐなかつた。ある時娘が父親に帶をせんだが中々買つてくれない、この間だつて馬に立派な鞍を買つたではないか、と娘が謂へば、冗談ぢやない、馬をお前と一緒にされちや困る、と父親がたしなめた。皮相な觀察者はこの事實を見て、東北の農民には親の娘に対する愛がなく、人間よりも馬を大事にする、と謂ふであらう。だが人間生活は近眼者流の見るが如き淺薄なものはない。恵まれない自然に對するはげしい生活闘争をしなければならぬ。

い人々にとつて、一家の生活を保つ生業は個々人の快適や安危よりも更に重要なものである。娘を愛さないのでは決してない、だが家全體の生活が更に重要なのである。事物の本質を認識して、人々の快適や安危を犠牲にしなければならない程のこの尊い努力に襟を正しくしないで、現象を一瞥して鑿壁するものがあるなら、もはや何をかいはんやである。

同じ事例は無數にあげられる。例へば「御飯はおすみですか」と謂つて挨拶するのは、食ふことばかり考へる贊しい民族性の然らしめる處であると謂ふのも、その一つであらう。處がアメリカ人に招待された場合、歸る時は「御蔭様で非常に愉快な時間を送りました」と挨拶するもので、日本流に「御馳走様でした」と謂ふのは紳士にふさはしくないことゝされてゐる。挨拶に「食ふ」ことが出てゐるか否かで日本人がアメリカ人よりも戦しいと謂ふものがあるなら、誠に愚の骨頭である。思ふに挨拶は兩者間の親近の情を表白する社會關係の一形式で、挨拶の言葉に使はれる具體的内容は時代によつて又處によつて異なるものである。ある言葉が始めて挨拶に用ひられた時、恐らくその内容に相當意義があつたことであらう。いづれの民族も早起をよい事としてゐるもので、朝に出合つた時に「お早う」と謂ふのは、相手が早起である事をほめた意味がある様に思はれる。併し「お早う」が挨拶の常用語として慣用されるに至る時、もはやその具體的意味を離れて、一種の親愛の情を表白する形式に變つて了ふ。

單に具體的な意味内容が不間に付されるのみでなく、之を穿鑿した場合にかへつて不都合になる場合がある。朝の十時頃にあつた人にお早うと謂つたとする、「十時頃にお早うでもあるまい、お前の言葉をきいてゐるまるで俺は毎日晝まで眼である様だね、」挨拶された相手が重箱の隅をはじくる人なら、或ひはこう憤慨するかも知れぬ。挨拶はやはり人間關係の現象として見るべきもので、言葉尻をとらへてふりましても徒勞あるのみである。

ある社會事象に臨む時、その前後左右の關聯を探索して、即ち之を全體關聯的に且歴史的に考察して、始めてその眞相にふれ得るものである。先づ努力してある歴史的社會の生活の總體を理解して後に、始めてその歴史的社會の内のある事象の機能、意義が理解されるのである。最初から努力せずに、ある歴史的社會の内の一事象を取り出し、思付きでそれに尤もらしい理窟をつけて以て生活全體をかたづけて行くのは、骨折つて研究しなくとも一應學問的な譲裁をつくらぶに便利であるかも知れぬが、寸毫も眞實の探求に益する處なくかへつて認識を混亂せしめるのみである。一瞬に水劫を聞き、涓滴に大海を見るは鋭い直觀力を有つ詩人や哲學者に待つべき處で、俗衆にとつて、全體によつて部分を見すに部分によつて全體を推すのは、あはれむべき悲劇にすぎない。民俗の理解にとつてこれが最も権要なことである。

戰時獨逸法令集

荒木獨逸法研究所長
編譯

本書は發行以來好評を博せる「新獨逸法令集」の姉妹篇となるので、今次大戰開戦後に追加せる獨逸の戰時法令類に占領地法令を譜載せるもの。故國新体制運動の費重なる著者となるは勿論官廳・學校・會社共の他外様の變化風体の指導者が是非座右にすべき書である。兩者を併せ讀まるるならば其の烈異更に大きなものがあるを信す。(A5判特製五三〇頁 定價八円 送料四十錢)

世界貨幣の前途

前編 梶原義徳著
雪田義太郎著

今本位制崩壊の原因とその過程を真に説明し、その後に現はれたる管理通貨制を世界各國の方々につき比較討し、最後に日・獨・米三國の貨幣によつて代表される世界の世界貨幣制度につき重大な示唆を與ふ。資料豊富、敍述整然識見充満。學者にして實際家たるこの著者はして始めて成し得たる好書。(A5判上製二三〇頁 定價二円五十錢 送料二十錢)

日本語と日本精神

坂口三郎著

西洋傳來の經濟學はその申し子たる資本主義・社會主義と共に完全に行點り、今や世界の經濟學を急治に擴せしめて飽きぬ酒を知らない。之を教ふは日本國体に立脚せる一派が活潑あるのみ。日本經濟は從來の反個體性を拂拭することによつて常に進歩に教はれるのだ。學者も爲政者も著者の卓越せる觀察と透徹せる理論に耳を傾けよ。そして長期總力戰勝の鍵を握め。(A5判上製二五〇頁)

日本語と日本精神

國民精神文化研究所編著
德澤龍司著

從來の日本言語學は未だ大半的手法を成してゐない。正しき日本說に立つての日本言語學は造ら日本語を以て寫真とするであらう。著者は本書に於てあらゆる角度から日本語を詮考し、世界のあらゆる言語と比較検討し、日本語の絶對優秀の度を宣張した。我々日本人は本書によつて「言葉のさきはふ開」の認識を新たにすべきである。(B6判二五六頁 定價一円七十錢 送料二十錢)

振替 東京市麹町區霞ヶ関
五九七六

ダイヤモンド社